

市民の皆さんの声を反映した

(仮)可児駅前“子育て・健康・にぎわい空間”施設

計画中



市は、可児駅前の公共用地における“子育て・健康・にぎわい”をテーマとしたシンボリックな拠点づくりについて、企画設計（この拠点施設で実現していくことや具体的な施設の機能・規模・配置など）を取りまとめました。今回はこの中から市民の皆さんから出された意見や、施設のコンセプトなどを紹介します。



気軽に子育ての相談をしたい！

親子で食事できる場所がほしい！

可児の特産品、ブランド品を展示販売しては？

ヨガやダンス、介護予防運動ができる場所にしたい！

多様な意見を反映

企画設計の取りまとめにあたっては、様々な立場の市民や関係団体の皆さんから意見をいただきました。

① 市民ワークショップ

拠点施設に期待することや、既存の子育て関連施設を利用する際の課題などを整理するため、3回にわたりワークショップを開催しました。
 期間 平成26年7月～9月
 テーマ 拠点施設の各機能や外部空間に関する意見交換、親子で食事ができる機能の検討、既存施設（絆一む、児童センター、保健センター）の使い勝手について
 参加者 子育て中の親や子育て支援に携わっている団体の代表者の22人

② 関係団体ヒアリング

子育て支援や健康づくり、にぎわいづくりなどに関わる団体や施設の職員などを対象に、拠点施設に導入する機能などについてヒアリングを行いました。
 期間 平成26年4月～6月
 対象 社会教育委員、子育てサロン・民生児童委員、主任児童委員、PTA母親委員会、母子寡婦福祉連合

会、NPO協会（コネット）、国際交流協会、地域子育て支援センター（広見保育園、すみれ楽園）、市内児童センター、絆一む、健友連合会、健康づくり運動普及推進協議会、食生活改善推進協議会、商工会議所、駅前にぎわいプロジェクト実行委員会の20団体

③ アンケート調査

子育て施設の利用者などを対象に、施設の満足度などについてアンケート調査を行いました。
 期間 平成26年6月～9月

対象者	回答者数
子育て応援フェスタ来場者(子育て世代の親)	206人
絆一む利用者	122人
広見児童センター利用者(小中学生、大人)	102人
JR可児駅・名鉄新可児駅利用者(一般、学生)	424人
保健センター利用者	184人

市民の皆さんの声

ワークショップ、関係団体や庁内関係部署のヒアリング、公共施設や駅の利用者アンケートなどを通して得られた意見のうち、主なものを紹介します。

① 子育て支援機能について

- ・妊娠したときから切れ目のない子育て相談が気軽にできたい
- ・天候を気にせず安全に楽しく遊べること
- ・子育てに係る情報提供、情報交流がほしい
- ・親子と高齢者など、多世代のつながりがほしい
- ・先輩ママが活躍できたい
- ・絵本の読み聞かせがほしい

② 健康への機能について

- ・親子体操やヨガ、ダンス、介護予防運動などがほしい
- ・健康や食育に関する情報提供、相談がほしい
- ・可児川のルートを活用したウォーキングがほしい

③ 地域情報発信機能について

- ・可児の特産品、ブランド品などの発信・展示販売がほしい
- ・観光案内や地域の魅力を紹介できること

④ 商業・サービス機能について

- ・授産製品、市内事業者の子育て・健康関連商品の展示販売がほしい
- ・駅利用者が飲食がほしい
- ・親子で気軽に飲食がほしい

⑤ 広場機能その他の機能について

- ・駅前広場や可児川を生かして、市民が気軽に集まることができ、くつろぎ、多目的に利用できる空間があること
- ・雨にぬれることなく利用しやすい駐車場があること
- ・市民ボランティア（中高生も含む）やNPOが活躍できたい

⑥ その他

- ・可児の顔にふさわしく、未永く利用することができる中身のあふれるものがあること
- ・休日や夜間も利用できること
- ・一日を通じて、多くの人が訪れたいことができる仕掛けがあること
- ・エレベーターがほしい

施設のコンセプト

市民や関係団体の意見などを踏まえ、施設のコンセプト（施設のあり方）を次のようにまとめました。

コンセプト1 子育て支援の拠点

市政の重点方針「子育て世代の安心づくり」の実現に向けて掲げた「マイナス10カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て」を総合的にサポートしていく「場」とします。

<実現すること>

- 妊娠期からすべての親子を対象とした切れ目のない支援
- 子育て支援のワンストップサービスの提供
- 子育て支援の企画・調整
- 親子の交流・学習の場、楽しく遊べる場の提供
- 子育てを通じた世代間交流の促進

主な導入施設（予定）

児童福祉事務所、保健センター、
児童センター、子育てサロン

コンセプト2 健康づくりの拠点

子どもから高齢者まで、生涯にわたり健康で暮らし続けることを目指す「1・2・3・4で健康づくり」を推進していく「場」とします。

<実現すること>

- 健康に関する相談・情報発信
- 健康づくり・リフレッシュができる場の提供

主な導入施設（予定）

健康スタジオ、調理実習室

コンセプト3 交流・にぎわいの拠点

多様な世代が集まり、世代間交流による絆づくりを促進させるとともに、市民の生き生きとした交流・活動によるにぎわいを創出する「場」とします。

<実現すること>

- 可見市の魅力発信
- 商業施設の導入
- 市民や民間事業者の参画
- 多様な世代が集まり、交流・活動できる広場づくり
- 市の「顔」にふさわしいランドマークの創出

主な導入施設（予定）

観光案内所、アンテナショップ、飲食店
市民活動ルーム、広場

これからの予定

企画設計を基に、今年6月ごろまでに、市民などの意見を聞きながら、次の点に留意して施設の具体的な設計を行います。

《主な留意点》

- ・可見川の景観に配慮し、まちの将来像をイメージできる可見市の「顔」にふさわしい意匠とする
- ・シンプルで使いやすい施設とする
- ・個人情報保護などプライバシーやセキュリティに配慮する
- ・休日や夜間の開館を想定する
- ・広場と施設機能、駅や可見川を有機的につなぎ、交流とにぎわいを創出する
- ・ベビーカーの利用などに配慮した駐車場を設ける
- ・自然エネルギーの活用による環境負荷の低減と省エネ化を図る
- ・維持管理経費の軽減に配慮し、施設の長寿命化を図る

設計業務の委託

柔軟で高度な発想・設計力を持つ設計者に委託するため、昨年12月に公募型プロポーザルを実施しました。

厳正な審査の結果、最優秀提案者として(有)香山壽夫建築研究所を選定し、設計業務の委託契約を締結しました。

問合せ 子育て政策室